

実践！会社を良くする社長学 - 4万7000社が集結「中小企業家同友会」パワーの源泉

プレジデントが1年間「中小企業家同友会」を連載 (第12回)

このたび、ビジネス誌「プレジデント」(32万部発行、月2回刊)に、2018年4月23日発行号から1年間にわたり同友会の活動とそこで企業変革を行った会員企業が、『実践！会社を良くする社長学』- 4万7000社が集結『中小企業家同友会』パワーの源泉』として紹介されることとなりました。執筆は清丸恵三郎・プレジデント元編集長。(本サマリーは「プレジデント」編集部了解の下、作成されています)

第12回 なぜ社員と社長と一緒に学ぶのか 2018.10.29号(10月6日発行号) 要約版



「社員共育大学」「幹部社員大学」「同友会大学」……。これら3本柱で社員教育に熱心に取り組むのが岡山同友会である。しかも、社員だけの受講ではなく、必ず経営者も一緒に参加することが義務づけられている。岡山同友会が実践する社員と経営者が共に学び、共に育つ「社員共育」の最前線をレポートする。と、リード。同友会で取り組む社員教育活動についての紹介です。

以下は一部抜粋して要約。*詳細は本誌をお読みください。

「社員共育大学」第3講は「様々な視点でモノを捉える」とのテーマで、田中製作所社長の門田悦子氏が40分ほど問題提起の講話を行い、その後、経営者と社員が7グループに分かれて討論し、グループごとに感想や疑問等をまとめて社員の一人が発表。最後に講師が質問に答え、改めて自分なりの考えを述べるという形で進行した。(中略)受講生たちは彼女の話聞きつつ、テーマに即して自らの思考をまとめ、その後の経営者を含めたグループ討論で自らの考えを話す一方で、他の出席者の多様な受け止め方、考えを知り、自らの思索を深めるとともに豊饒なものにしていく。毎回終了後、所定のフォーマットでレポートの提出が義務づけられており、否応なしに真剣に講話を聞き、グループ討論に参画せざるをえない。

「社員共育大学」の目的は全8回にわたる講座を通じて、仕事とよりよく生きるものの関係を共に考えること、自社の持ち味を再認識し自分の役割や責任を考えること、人の話を聴く力や自分の意見をまとめて表現する力や討論の力を養うこと、そして多くの他社の社員との交流により新しい仲間づくりをすることなどだという。つまりこの社員共育大学の目的は外部のセミナーなどで得られる一般的知識やテクニカルな知識の向上ではなく、人間力の向上にあると言っている。

しかも社員を送り出している企業経営者は、毎月1回打ち合わせを行い、前回の反省を踏まえつつ次回の報告内容や討議の柱を検討するのだという。経営者は多忙な中を時間を割き、社員共育大学に真剣に向き合っているのだ。これだけやって受講者が成長しないような事態は、おおよそ想像しにくい。

岡山トヨタ自動車社長の梶谷俊介氏は「私も参加して初めて気づいたのですが、ここは社員を教育するだけでなく経営者の学びの場。つまり経営者が社員と一緒に参加、共に学び共に育つ、共育の場なのだわかったのです。それでこの大学の目的に、経営者の学びの場でもあると明記することにしました」と語る。

「幹部社員大学」は(中略)経営理念を具体化するプロセスやマネジメントの基礎を学び、リーダーとしての自己変革を促すなど、レベルは高い。また毎回宿題が課され、部下の意見も聞きながら課題に取り組むことが求められるが、経営者と幹部社員の信頼関係が深まることもあり、ほとんどの参加者が修了。岡山同友会の「共育」への熱意は半半可ではない。

岡山同友会代表理事で(中略)ダイヤ工業会長の松尾正男氏も、こう語る。「うちの社員で同友会関係の大学へ行っていないのはパートさんの数人くらい。その結果、社会の変化、会社の変化に対応できる人材が育った。自社で教育しきれないテクニカルな部分以外のことを、他社の経営者が教育してくれた面もある。当社は経営指針の成文化に始まり、共同求人、社員共育と、ほんとうに同友会様さまです」



第13回 なぜ障害者雇用で社内が明るくなったのか 2018.11.12号(10月22日発行号)

プレジデント：同友会専用購読申込ページ <https://presidentstore.jp/ext/doyu.html>

*年間購読料1万円(40%オフ)、選べる書籍贈呈など各種特典が受けられます。

*シリーズ第1回からのバックナンバーのお申し込みは、8月30日までです